



# 母性

2022年/日本映画

配給：ワーナー・ブラザーズ映画/115分

2022(令和4)年11月23日鑑賞

TOHO シネマズ西宮OS

監督：廣木隆一  
 原作：湊かなえ『母性』（新潮文庫刊）  
 出演：戸田恵梨香／永野芽郁  
 ／三浦誠己／中村ゆり／山下リオ／高畑淳子／大地真央／吹越満／高橋侃／落井実結子

## 👁️👁️ みどころ

女子高生の自殺から始まる湊かなえのミステリー小説は映画化が難しい。そのうえ、“母性”をテーマにした本作は、男の私にはさらに理解が難しい。

私は愛能う限り、娘を大切に育ててきました。今ドキ、こんなセリフをしゃべる人がいるの？他方、「母の愛が、私を壊した。」とは一体ナニ？冒頭的女子高生の死は、自殺？それとも・・・？

母と娘の物語は涙を誘う感動作が多い。しかし、続けて観た井上真央と石田えり共演の『わたしのお母さん』（22年）がイマイチなら、戸田恵梨香と永野芽郁共演の本作もイマイチ！



◆「これが書けたら作家を辞めてもいい。そう思いながら書いた小説です。」それが本作の原作となった、湊かなえのミステリー小説『母性』だ。そこまで言われると、『告白』（10年）（『シネマ25』51頁）や『白ゆき姫殺人事件』（14年）（『シネマ32』227頁）の面白さを知っている私としては、これは必見！

母娘の確執をテーマにした映画は、つい先日観た、井上真央と石田えりが共演した『わたしのお母さん』（22年）が期待外れだっただけに、本作に期待！

◆本作は冒頭、ナレーションの中、一人の女子高生が自殺のような姿で発見されるところからスタートする。警察は他殺の可能性も含めて捜査に着手したが、ニュースではその子の母親は「愛能う限り、大切に育ててきた娘がこんなことになるなんて信じられません」と言葉を詰まらせていたそう。しかし、私が思うに、今時、公式にこんな言葉遣いをする人がいるの？これは、かつての貴族サマの血統を受けた、よほど上流家庭の母娘？

湊かなえの人気ミステリー小説は、冒頭に自殺らしき問題提起をした後、告白形式でストーリーが展開していくものが多い。本作でも、大地真央扮する母親の娘（お嬢様）、ルミ子に戸田恵梨香が扮し、なんとも微妙な母娘関係が描かれていくので、それに注目！

◆①絵画教室で知り合った男、田所（三浦誠己）との交際の開始、②田所が描いた絵を母

親が褒めてくれたことを根拠とした(?) 田所との結婚、③田所の両親が用意してくれた一戸建て住宅での新婚生活の開始と長女の誕生、とルミ子の結婚生活は幸せの定番(?) を歩んでいた。ルミ子はナレーションで語られるとおり、母親から受けた愛情をそのまま娘に与えようとする限りの努力をし、その効果もテキメンだったから、なおさらだ。さらに、田所の気難しい母親(高畑淳子)が清佳と名付けてくれた娘は、優しい子にスクスクと成長していたから、ルミ子たちは幸せいっぱい……?

◆しかし、ある日、激しい台風によって停電となり、あっと驚く事故が! 私が先日観た韓国映画『奈落のマイホーム』(21年)では、1棟の新築マンションが巨大なシンクホール中に丸々飲み込まれ、500メートル下まで落下するという、信じられない事故を目撃した。その姿もかなりバカげていたが、激しい雨風で窓ガラスが割れ、火の点いたローソンが倒れ、火事になったとしても、ルミ子の母親と娘がタンスの下敷きになり、本作で見るような、母親を助けるの? それとも娘を助けるの? という二者択一を迫られる状況が現実にも生まれるの?

こんなバカげたシーンを韓国でも日本でも真剣に演技し、演出している姿を見ていると、私はいいかげんウンザリ……?

◆田所の母親は元々陰険だったから、田所の家のことを知っているルミ子の親友(中村ゆり)は、「あなたみたいなお嬢様が田所家に嫁ぐのはやめた方がいい」とアドバイスしていたほどだ。本作では、嫁いだ当初からそんな義母の意地悪ぶりが顕著だが、火事で我が家を失ったルミ子夫妻が、義父母の敷地内に新たに建てられた離れに住むようになると、それがさらに激しくなることに。女優・高畑敦子の演技は、一般的には立派なものだが、本作における大声での意地悪ぶりがやけに目立つ演技はいただけない。

ルミ子の方も、こんなにいじめられるのなら、さっさと義父母と別居、夫がそれを拒むのなら、田所とも離婚してしまえばいいのに、そこでもなお、私は義母の気に入られるように、生きなければ……。そんな哲学を維持しているルミ子の生き方と、そんな脚本にうんざり……。

◆チラシには、娘時代のルミ子とその母親の姿ではなく、母親になったルミ子と高校生になった娘・清佳の姿が仲良く写っている。そして、母の証言として、「私は愛能う限り、娘を大切に育ててきました。」との言葉が、娘の証言として、「何をすれば、母はわたしを必要としてくれるのだろうか。何すれば、母は愛してくれるのだろうか。」等の言葉が綴られている。しかして、本作後半は、義母の下で虐げられながら生きている、そんな母娘の価値観の相違(母性の相違?)が、いかにも湊かなえ的な分析と言葉で表現されていくので、それに注目!

そこでのポイントは、娘の証言の中に、「母になら殺されてもいいーだけど それじゃあダメだ……」の言葉があること。これは一体ナニ? 男の私には到底理解できない(理解できなかった)感覚だが……。

2022(令和4)年11月25日記